



◎土木事務打合會

各府縣土木主任官會議が内務省に於て開催せられたるを好機とし五月九日の夜港灣協會と合同し道路及交通に關する事務の打合會を企て、滯京中の土木主任官諸氏を帝國ホテルに招待し晩餐會を開いた、來會者主客合せて百三十八

する旨の挨拶を述べられ之れに對して來賓を代表して宮島愛知縣土木部長は港灣協會及道路改良會が海運に交通に至大の功績を擧げられた事は今更言を費やすの要を見ない尙一段力を港灣事業の上に又道路改良の上に致され我國の運輸交通上に貢獻せられんことを希ぶの情切なるものである兩會發展の爲めには微力を竭すことを吝なるものでない云々との答辭を述べられ來會者は會議の疲勞をも忘却せられ快談に時を過ごし九時頃漸く散會を告げた。

◎國際道路問題調査委員會

○第四分科委員會

名で水野會長初め兩會の役員も多數出席せられた定刻に至り食事を共にしたデザートコースに入り兩會長水野博士は港灣協會及道路改良會が今日の盛況を呈したるは來會各位の多大なる御援助に依りたるもので深く感謝する次第であるが更らに將來時代の趨勢に伴ひ活動せんことを期して居るを以て各位は今一層の御援助を與へられんことを切望

志賀君出席し協議決定したる事項左の通り。

(一) 第四部調査會報告書草案審議

第四分科委員會第一聯合小委員會は五月三日午後零時半より午後五時まで丸ノ内帝國鐵道協會に開催、委員武井課長、佐藤君、伊藤(大三)君、江口君、小野寺君、熊野君、樋木君、松田君、近藤君、堀君、平山君、伊藤(大二)君、

(二) 踏切ニ關スル改正案作製ノコト（江口、伊藤大三
委員）

(三) 次回ハ昭和八年五月十八日午後零時三十分ヨリ丸

ノ内帝國鐵道協會ニ於テ開會ノコト
ノ内帝國鐵道協會第二聯合小委員會は午後零時三十分より

午後五時三十分まで丸ノ内電氣俱樂部に開催、委員武井課
長、佐藤君、伊藤(大三)君、江口君、井上君、松田君、近

藤君、堀君、平山君、前澤君出席し、協議決定したる事項
左の通り、

(一) 第四部調査會報告書草案審議（未了）

(二) 次回ハ昭和八年六月一日午後四時三十分ヨリ丸ノ
内帝國鐵道協會ニ於テ開會ノコト

◎全國交通網調査會

第三回は五月一日午後四時半より午後七時まで帝國鐵道
協會に開催され、出席者は左の通りである。

内務省土木局技師 牧野雅樂之丞氏

港灣協會より

淺野平二氏、舟羽鋤彦氏、雪澤千代治氏

帝國鐵道協會より

谷口守雄氏、日淺寛氏、岡野昇氏

日本交通協會より

篤正太郎氏、中野金次郎氏、中川正左氏、喜安健次郎氏
道路改良會より

中川吉造氏、前川貫一氏、牧彦七氏、小畠敏四郎氏

中川正左氏座長席に着き開會を宣せらるや、小畠敏四郎
氏より鐵道路線に關し用兵國防上の希望を述べられ、次い
で内務省土木局の牧野技師より大要左の如き全國道路網概
況の説明ありたり。

(一) 國道路線は東京を起點として伊勢大神宮、各府縣廳
師團司令部、鎮守府所在地、開港場等に到るものにして
其他は軍事國道なり。

(二) 目下國道路線數は普通のもの三十八線軍事關係のも
の二十七線、總數六十五線あり。（帝國々道圖參照）

(三) 延長 軍事 三〇八糸(七八里)

國道 八、一二〇糸(一〇六七里)

府縣道 九九、二九〇糸(一五、二八二里)

國道、府縣道、地方費道の合計一〇七、七二〇糸(二七、四二八里)

其他準地方費道、町村道、市道を加ふれば九三六、六四〇糸(二三八、四九五里)なり。

(四) 幅員

(イ) 國道 有効幅員 四間以上あるもの

一、七七五糸(四五一里餘)

(ロ) 府縣道 有効幅員 三間以上あるもの

九、八八六糸(一、五一七里)

(ハ) 國道 (軍事關係のものを除く)

有効幅員 四間以上のもの一二三%、三間以上四

間未滿三三%，二間半以上三間未滿二一%，二

間以上二間半未滿一五%，二間未滿のもの一〇%

%

(ニ) 府縣道 四間以上のもの二%，三間以上四間未滿

八%，二間半以上三間未滿一四%，二間

以上二間半未滿一八%，二間未滿のもの

四八%

(五) 全國の各種道路中橋梁なきもの二ヶ所あり (海峽を除く)

(イ) 四國にては香川縣より高知縣に通する道路中池田附近に森の渡あり

(ロ) 高松より德島に至る二十二號線中の谷野川

右の外目下渡船を橋梁に改造中のもの

(ハ) 宮崎縣下美々津川橋

(ロ) 愛知縣より三重縣に通する路線中揖斐川、木曾、

長岡

右二ヶ所は本年度中架橋工事落成の見込

國道中橋の總數八、二一四 延長一三九、〇〇〇糸

(六) 鐵道軌道との交叉は全國總數一、二八三ヶ所あり、

内跨線橋七一、跨道橋一七〇ヶ所にして平面交叉は一、

○四二ヶ所なり。

此の平面交叉を全部高低交叉に改造するには約二千萬圓を要す。

(七) 昭和六年初めの調査にて國道中改良済のもの約二百里改良を要せぬもの百四十里、鋪装のみの改良を要するもの百八十里、幅員四間以上にして改良を要するもの一

二八里、四間未満のもの一四一九里、計一、〇六七里となる。此改良費用約三億八千二百萬圓を要する見込なり。

但し右の内昭和六、七年度に約百里の改良済なり、此費用約三千萬圓なり。

(八) 全國々道中自動車が大體通過し得るもの(十二尺以上)は八八%なり。

但し自動車關係の理想としては幅員三間以上なるに付此理想の許に三間以上の路線のみを計上すれば全路線の約半分位に減少する筈なり。

(イ) 現在主要國道中最惡路と見做さるゝもの
(イ) 青森縣太平洋岸に在るものにして馬淵川に架せる

木橋腐朽せる爲め乗用自動車は辛じて通し得るも貨物自動車は危険なり、但し其他の青森縣内は大體に道路幅員廣くして宜し

(ロ) 青森縣より宮城縣迄は青森縣との境が一寸悪るきも夫より以南は大體宜し

(ハ) 福島米澤間はトンネル崩れ居る爲め自動車の通行出來ず之は本年度より改修する積りなり

(ニ) 福島東京間は自動車の運行差支なし

(ホ) 青森より秋田迄は幅員及路面よろしきも八郎潟附近其他縣内路面非常に宜しからず。

(ヘ) 秋田酒田間は自動車の運行差支なし

(ト) 酒田新潟間も自動車の運行差支なし尙六七年度に於て新發田新潟間改修せり

(リ) 長野高崎間の碓氷峠は昨年改修に着手し目下工事中なり

(ヌ) 高崎東京間は良好なり

(ヲ) 米子、岡山間 同上

(ル) 長野、高田、親不知邊は最も悪く通行出來ず

(ム) 山陽線岡山兵庫縣々界三路面最も悪く車輛の通行

(ヲ) 福井、金澤間は目下俱利加羅峠改修中

困難なり、廣島縣内割木町（三石附近）の附近勾配幅

(ワ) 敦賀福井間一寸因難なる處あるも車は辛じて通る

員悪しく車輛困難す

(カ) 東海道は名古屋迄天龍川（八月頃開通）を除き他

は一般に良好なり

(ヨ) 名古屋、岐阜間良し

(ウ) 九州は大體自動車の運行に差支なし、但し熊本鹿兒島間に於て二ヶ所危険の所あり

(エ) 四日市方面は揖斐川下流に橋梁なし（本年度中に

尙質問應答ありたるが答辯の要領は左の如し。

(タ) 四日市方面は揖斐川下流に橋梁なし（本年度中に

修に着手中

(レ) 伊勢神宮に至る路線は路面宜しきも幅員十尺位に

(一) 四國の吉野川の橋は二一號線にして日本一長き橋な

して不便を感じ居れり

り。

(ソ) 東京より浦和、前橋、和田峠、木曾、福島を経て名古屋に達する中仙道線は大體宜しきも途中の鳥井峠は屈曲激しき爲め車行の困難を感じず

(ツ) 京都福知山間の鳥取附近不良なり

(一) 道路改修の主なる方針は目下自動車不通の處なり、路面の幅員を廣めるなり、何れも最も其急を要するものより着手し居れり例へば東京千葉の如きは交通最多き爲め目下幅員擴張工事中にして福島、米澤の如きは目下交通不能なれ共將來を豫想して着手中なり。

(ネ) 山口縣は島根山口の縣界の所自動車通行出來ず

(ナ) 鳥取、姫路間も縣界の所自動車通行出來ず

(一) 全國の改修豫算三億八千萬圓は自動車の通過可能を主

とし幅員勾配曲屈共全て道路構造により尤も全國總べて
の路面鋪装と迄は行くまいが兎も角も自動車を通せる丈
にはやることが主眼なり、尙今日迄は大橋梁や主要都會

附近は大體施工し追々各地方に及す積りなり。

(一) 國道の維持修繕費は四年度總經費は三・九〇〇萬圓に
して此内國道に要したるものは三二〇萬圓なり、但し此
内軍事國道は含まず。尙五年度は三八〇〇萬圓、六年度
は三三〇〇萬圓なり。

(一) 四年度の新設費は八・三〇〇萬圓（内國道の九百四十
萬圓）、五年度は七・四六〇萬圓、六年度は一〇・二八〇
萬圓、七年度は稍前年に同じなり。

(一) 時局關係の特別支出額は約一・五〇〇萬圓なり。

(一) 砂利道の維持費は重要の府縣道で一里六〇〇圓位を要

す、されど青梅街道の如きは年額一里三〇〇〇圓を要す

る箇所もあり何故なれば交通頻繁の爲め目下三週間に一
回の手入れを要する現況なり、但し夫も青梅附近になれば
五〇〇圓位にて間に合ふと思ふ。

(一) 簡易鋪装の面坪費用は二五〇錢より三圓位ならん、尤
も一日自動車五六十臺通過の所は面坪五〇錢位にて宜し
からん、但し貨物自動車は非常に路面を壊す。

(一) トラックの積載量取締に付ては、大阪府及岐阜縣、福
岡縣はやつて居る、東京はやつて居らぬ、内務省では先
年ロードメーターを買入られたので時々検査をして見たい
と思ふが御承知の通土木局には警察權なき爲め其實行が
困難なり。

但し秤量機は一臺僅か一〇〇圓位で出来る。

(一) 目下の實狀は一噸半積に三噸も積んで居る始末である
が路面保持の方から云へば車の重さ以外タイヤーの良否
にも關係す、路面を壞すはタイヤーが路面にぶつかる力
多き場合最も損傷を大ならしむる虞が多い。

(一) 第四回は五月十八日午後五時丸ノ内鐵道協會で開會遞
信省航空局長片岡氏同局伊勢谷氏其外雪澤、丹羽、淺野、
池田、日淺、岡野、算、中野、中川、牧の諸氏出席中川
氏座長席に就き片岡航空局長より我邦の航空事業に關し

有益なる講話があつて懇談を爲し午後八時散會した。

◎神明國道竣工式

大正十年起工以來巨額の經費を投じ功を急いでゐた、神明國道は今回完成し、五月二十二日盛大なる竣工式が舉行された。祭主の祭事ありて後、白根知事の式辭、工事主任の經過報告、山本内務大臣（齋藤内務次官代理）上田兵庫縣會議長、水野道路改良會々長（平井囑託代讀）黒瀬神戶市長、磯野明石市長の祝辭があつた。内務大臣並に本會會長の祝辭は左の如くである。尙工事概況は次號に譲る。

祝辭

昭和八年五月二十二日

内務大臣 男爵 山本達雄

二號國道神戸明石間道路改築工成ルヲ告ケ本日茲ニ竣工ノ式典ヲ舉ケラル邦邦ノ爲寔ニ欣慶ニ堪エサルナリ

由來神戸市ハ我國對外交易ノ門戸トシテ樞要ノ地位ヲ占

メ明石市亦地方産業ノ中樞都市トシテ重キヲ爲シ加フル

ニ其ノ間風光明媚ナル舞子須磨ノ勝地ヲ包擁シ内外觀光

ノ旅客來往亦日ニ滋キモノアルモ之ヲ連絡スル二號國道

ハ近代交通ノ要求ニ副ハサルノ憾ミアルヤ久シ縣當局此ニ鑑ミ襄ニ政府ノ助成ヲ得巨費ヲ投シテ之ヲ改良ヲ企劃シ爾來幾星霜克ク其ノ功ヲ積ミ今輒チ功成ルヲ見ル念フニ本道路ノ完成ハ啻ニ神戸明石兩都市ノ發展ニ至大ノ效果ヲ齋ラスニ止マラス襄ニ改良ノ工ヲ竣ヘタル阪神國道ト相俟テ關西地方ニ於ケル産業經濟ノ進展ニ寄與スル所亦鮮少ナラサルモノアルヘシ冀クハ將來之力維持管理ニ力ヲ致シ長ニ其ノ效果ヲ收メラレムコトヲ一言所懷ヲ述ヘテ祝辭トス

本日茲ニ神明國道改築工事竣工ノ式典ヲ舉行セラルルニ當リ一言祝意ヲ述フルヲ得ルハ最モ欣幸トスル所ナリ
神明國道ハ帝國ノ貿易港トシテ最モ重要ノ地位ヲ占ムル
神戸市ト産業都市タル明石市トヲ連絡スル幹線路ニ屬シ
沿線ニハ觀光地トシテ夙ニ内外人ノ間ニ膾炙スル須磨舞子ノ景勝地ノ存スルアリテ交通上重要ナル地位ヲ占ム縣

當局之鑑ミ義ニ政府ノ補助ヲ得テ之カ改築ノ工ヲ創メシ以來巨額ノ工費多年ノ日子ヲ費シ茲ニ漸ク功成ルヲ見ルニ至ル念フニ本路線ノ改良カ之ニ依テ交通上ニ至

大ノ便益ヲ齎スノミナラス我邦產業ノ開發ノ進展ニ資ス

ル所多大ナルモノヲ見ルハ敢テ言ヲ俟タス庶幾クハ將來之方管理維持ニ努メ以テ永遠ニ其ノ效果ヲ收メラレントヲ聊カ燕辭ヲ述ヘテ祝意ヲ表ス

昭和八年五月二十二日

道路改良會會長 水野鍊太郎

◎京阪國道竣工式

京阪國道は昭和三年起工以來巨資を投じて銳意工營の結果今回完成し、五月二十三日盛大なる竣工式が舉行された。祭主の祝詞終りて後、齋藤京都縣大阪兩府知事の式辭村山京都三輪大阪兩土木部長の工事報告あり次いで山本内務大臣（勝田内務參與官代理）内山京都府會議長、辻阪大阪府會議長、大森京都市長、關大阪市長、水野道路改良

會長（平井囁託代理）等の祝辭があつた。内務大臣並に本會長の祝辭は左の如くである。尙工事概況は次號に譲る。

祝辭

二號國道京阪間改築功ヲ竣へ本日茲ニ竣工式ヲ舉ケラル邦家ノ爲寔ニ慶賀ニ堪ヘサルナリ

抑々京阪兩都市ハ共ニ我國文化並ニ經濟上重要ノ地位ヲ占メ其ノ關係夙ニ密接ナルモノアリ殊ニ輓近兩都市ノ發展著シキヲ加フルニ伴ヒ更ニ其ノ關係ヲシテ益々緊急ナラシメ兩市ヲ聯絡スル鐵道軌道ノ如キ全國屈指ノ發達ヲナセルニ拘ハラス道路ノ施設ハ舊態依然トシテ現代交通ノ要求ニ添ハサルコト久シカリキ義ニ兩府ニ於テ之ガ改築ヲ計畫スルヤ政府亦之ヲ助成シ爾來工程着々其ノ歩ヲ進メ工ヲ積ムコト六年資ヲ費スコト約七百萬圓今乃チ新式善美ノ道路其ノ完成ヲ見ルニ至ル、念フニ今後兩市間ノ交通ハ更ラニ一段ノ利便ヲ加ヘ文化ノ進展產業ノ發達ニ寄與スル亦極メテ大ナルモノアルヘク義ニ改良サレタル阪神國道ト相俟テ京阪

神間ニ於ケル道路交通ヲ革新スルトコロアルベシ
冀クハ維持管理其ノ宜シキヲ制シ長ク其ノ効果ヲ收メラレ
シコトヲ一言ヲ寄セテ祝辭トス

昭和八年五月二十三日

祝辭
内務大臣 男爵 山本達雄

昭和八年五月二十三日

道路改良會々長 水野鍊太郎

二號國道京都大阪間改築工事成ルヲ告ケ茲ニ竣功ノ式典ヲ

舉行セラル寔ニ慶賀ニ堪ヘサルナリ

抑々道路改良ノ事タル其ノ効果ノ及フ所極メテ大ナルモノ
アルニ拘ラス工費ヲ要スル少カラサル爲之カ遂行動モスレ
ハ難色アルヲ免カレス然ルニ京都大阪兩府當局カ京阪都市
間ニ於ケル交通ノ状態ニ鑑ミ曩ニ相計リテ二號國道ノ改築

ヲ企テ政府助成ノ下ニ巨資ヲ投シテ之カ改築ニ從ヒシヨリ

記

茲ニ數年工程着々其ノ序ヲ遂ヒ今乃チ其ノ竣工ヲ見ル念フ
ニ本線改良ノ完成ハ獨リ關係地方ノ開發振興ニ資スルノミ
ナラス進ンテ國運ノ伸張ニ寄與スル所大ナルモノアルハ敢
テ言ヲ俟タス昨ハ神明國道改良ノ完成ヲ見、今復本道改築

◎道路交通情勢調査要綱

昭和八年五月八、九日の土木主任官會議に於て道路の改
良に資するため左記事項に基き各地方をして道路の交通情
勢を調査せしめ之に要する經費を政府より補給される旨指
示された。

一 調査ハ國道及重要ナル府縣道ニ就キ行フコト

二 調査期日ハ六月一日、二日、三日ノ三日間及十月十八
日、十九日、二十日ノ三日間ノ二回ニ亘リ執行スルコ
ト但シ祝祭日縁日等特ニ交通雜沓スル日ハ之ヲ避ケ連

續三日間トシ降雨ノ日ハ順延スルコト

三、觀測點ハ一路線中交通量ニ著シキ變化ナキ部分ヲ區切

リテ之ヲ一區間トシ其ノ中間ニ一箇所ヲ設置スルコト

ト前項一區間ノ延長ハ大體八キロメートル乃至十二キロメートルトス但シ都市及其ノ附近ニ於テハ之ヲ縮少

スルコト

昭和八年度交通調査日表														
(甲) 第一日観測表 (乙) 三日間観測一日平均表														
年月日 西暦 天正 観測方法														
統一規格式														
被観測地名														
路線名														
路線番号														
風向														
風速														
時間														
車種														
車両														
乗合車														
貨物車														
自転車														
機械														
其ノ他														
合計														
被観測地名														
路線名														
路線番号														
風向														
風速														
時間														
車種														
車両														
乗合車														
貨物車														
自転車														
機械														
其ノ他														
合計														

但シ交叉點、分岐點等觀測ニ不便ナル箇所ヲ避ケルコ

雜報

- 左記各號ニ依リ一時間宛ヲ區切りテ通過數
量ヲ觀測スルモノトス
- (2) 歩行者……人數
- 乳母車ニ附キタル人ハ歩行者トス、曳子、馬子

道路交通情勢調査要綱

一、觀測方法

(1) 觀測時間

第一回(六月)ハ自午前五時至午後九時

第二回(十月)ハ自午前六時至午後八時

但シ特殊ノ事由アル區間ニ於テハ適當ニ之ヲ縮少

長スルモノトス

(2) 觀測事項

左記各號ニ依リ一時間宛ヲ區切りテ通過數

(1) 歩行者……………人數

乳母車ニ附キタル人ハ歩行者トス、曳子、馬子

(九) 乗用自動車

臺 數

(八) 自動自轉車……臺 數
リヤカー、サイドカー附
ノモノヲ含ム

昭和八年度交通調査總平均表											
測定部位			左 駐				右 駐				第三號機式
測定部位名	部	百	日	月	日 平 均	日	月	日 平 均	標員一キロ	合	
步行者											ノモノヲ含ム
歩行者											馬
牛											車
馬											電
車											船
船											空
空											盈
盈											臺
臺											數
數											

注 番 本表は測定ノ交通計ノ總平均ヲ示ムルモノニシテ把入方法ノ簡便
(一) 本表は測定ノ交通計ノ總平均ヲ示ムルモノニシテ把入方法ノ簡便
(二) 測定部位 (左側) の總平均 (右側) の總平均
(四) 乗用自動車ノ總平均 (五) 乗用車ノ總平均 (六) 貨物自動車ノ總平均 (七) 貨物車ノ總平均 (八) 二輪車ト四輪車ヲ區別
(九) 牛馬車ト空盈ノ判別困難ナルモノハ盈トス

(五) 荷車……空、盈、臺數
ノモノヲ含ム
リヤカー、サイドカー附
(六) 乗合馬車……臺數
箱車、撒水車、屋臺車等
ヲ含ム、空盈ノ判別困難ナルモノハ盈トス
(七) 牛馬車……空、盈、臺數
二輪車ト四輪車ヲ區別
ス、空盈ノ判別困難ナルモノハ盈トス
(八) 自動自轉車……臺數
リヤカー、サイドカー附
ノモノヲ含ム

(一) 牛馬……臺數
(二) 人力車……臺數
(三) 自轉車……臺數
(四) 自轉車……臺數
(五) 荷車……臺數
(六) 乗用車……臺數
(七) 貨物車……臺數
(八) 二輪車……臺數
(九) 牛馬車……臺數

イ、一日観測表

ロ、三百間観測一日平均表

第一號様式「交通調査
日表」ニ依ル

ハ、三日間観測毎時平均表

第二號様式「交通調査
毎時平均表」ニ依ル

ニ、總平均表

第三號様式「交通調査
總平均表」ニ依ル

ホ、調査箇所表

第四號様式「交通調査
箇所表」ニ依ル

(2) 調査表ノ記載方法 各表記載ノ通り

三、調査圖

(1) 調査圖ニハ縮尺二十萬分一帝國圖ヲ用フルモノトス

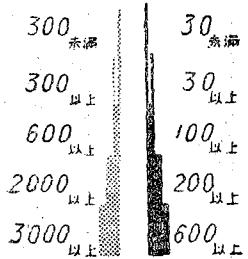
(2) 記入事項左記ノ如シ

イ、觀測點ニハ左ノ様式ニ依リ觀測點番號ヲ記入ス

ロ、直徑五ミリメートルノ墨呂圓

ハ、左ノ様式ニ依リ交通量ヲ當該路線上ニ記入ス

換算重量(赤色條)



占 用 値(青色條)



換算重量 占用値 色條ノ幅

六〇〇以上 三〇〇〇以上 三ミリメートル

二〇〇以上 二〇〇〇以上 二ミリメートル

一〇〇以上 六〇〇以上 一ミリメートル

三〇以上 三〇〇以上 一ミリメートルヲ略三分シ兩側二本

三〇未満 三〇〇未満 一ミリメートルヲ略三分シ内側一本

ハ、前號ノ各色條ノ片側ニ沿ヒ適當ノ間隔每ニ當該路線番號ヲ左ノ様式ニ依テ記入ス

國道 青色 ② 直徑五ミリメートル

特國道同 ③ 邊長四、五ミリメートル

指定府縣道 赤色 ④ 直徑五ミリメートル

重要府縣道 同 ⑤ 邊長四、五ミリメートル

但シ重要府縣道ニ就キテハ適宜番號ヲ附スルモノト

二、觀測點ニハ其ノ區間ノ道路ノ一般幅員ヲ左ノ様式

ニ依テ記入ス

(3) 都市及其ノ附近ニ就キテハ別ニ一萬分一以上ノ適當ナル地圖ヲ用ヒ前二項ニ準シテ交通量ヲ示スモノトス

四、交通調査報告

第二回（十月）交通調査ノ後左記圖表ヲ送附スルモノ

トス

- (一) 兩回ノ三日間觀測一日平均表……觀測點毎ニ兩回分各一枚
 - (二) 兩回ノ三日間觀測每時平均表……觀測點毎ニ兩回分各一枚
 - (三) 交通調查總平均表……觀測點毎ニ一枚
 - (四) 交通調查圖………一 枚
 - (五) 交通調查箇所表………一 部
- 五、注意事項
- (1) 鐵道踏切ニ於ケル交通量
右ハ將來ノ道路改良計畫樹立ニ際シテ考慮スヘキ重要ナル事項ナルヲ以テ特ニ重要ナル踏切ニ於テハ交通調査ヲ行フ可キモノトス
 - (2) 調査區間延長ニ就キテハ別ニ指示セル通り大體八キ観測點ノ選定ニ當テハ其ノ交通情勢ニ鑑ミ別ニ踏切
 - (3) 每一時間中ニ道路交通ノ遮斷サルル回數
 - (4) 一回ノ遮斷時間（正確ヲ期スルコト）
 - (5) 保安設備（遮斷機、警報機ノ種類及使用狀況等）
 - (6) 其ノ他（見透ノ可否、停車場構内ヲ踏切ル場合ノ事情、歩道跨線橋地下道ノ有無等）

箇所ニ一箇所ヲ設置スルカ或ハ其ノ前後調査區間延長ヲ加減シテ一般ノ觀測點ヲ以テ之ニ當ラシムルカ何レノ方法ニ依ルコト、踏切箇所ニ於ケル觀測點ニ於テハ一般ノ交通調査事項ノ外尙左記各項ヲモ觀測スルコトヲ要ス

ロメートル乃至十二キロメートルヲ標準トナスモ、

山間部其ノ他交通極メテ閑散ナルコト明カナル地方ニ於テハ相當之ヲ延長スルヲ妨ガズ

(3) 觀測時間八日出ヨリ日没後二時間ヲ標準トシテ第一

交通情勢調査箇所數

項ノ如ク指定セルモ往々ニシテ夜間低速度交通ノ少キ時間ヲ見計ヒテ自動車交通ノ増大スル區間等勘カラス、此ノ如キ箇所ニ於テハ相當觀測時間ヲ延長スヘキモノトス

千群新堺長兵神大京東奈

葉馬玉湯崎阪川都京

一七四
一一〇
二四〇
一五〇
一七〇
一七〇
一七〇
一七〇
一九〇
一二七

茨城栃木奈三愛山靜滋長岐

城木岡重知良賀梨阜野

一六一
一三五
三一〇
一五〇
一三〇
一五〇
一一五
一九六
一九六
二七八

宮福岩青山福石富島

城手島形森井田川坂

二二三
一二一
一〇一
一〇〇
一〇〇
一三八
一〇六
一一一
五八

島根山口島山和山廣岡歌

福高愛香德山和岡知媛川島

一八〇
二〇〇
一九〇
二一〇
七五
五一
一〇四
六八
六九

大佐熊宮鹿兒分賀本

崎繩島計六、七一〇

一九〇
一〇二
七〇
一二五
三五六
三七